

麦類赤かび病の防除の徹底について

本年は1月の気温が低かったものの、2～3月にかけては気温が平年並～高めで推移したため、麦類の生育は概ね平年並で推移しています。二条大麦の穂揃期の中心は4月の第4半旬～第5半旬になると予想されます。本病は開花期（二条大麦では穂揃期）から乳熟期に感染し、開花期以降に曇雨天が続く場合には発生が助長されます。本病に対する薬剤散布は病原菌の感染前が効果的であり、感染後では効果が劣りますので、散布適期を逃さないよう万全を期してください。

(1) 薬剤による防除法

散布適期は、二条大麦では穂揃期とその7～10日後、小麦では出穂5～11日後（開花始めから開花最盛期）とその7～10日後のそれぞれ2回であり、下表から薬剤を選定し、農薬使用基準に従って散布する。なお、小麦を除く麦類におけるトップジンM水和剤及び粉剤など出穂期以降1回しか使用できない剤は、それ以外の剤と組み合わせて2回散布する。

(2) 防除上の参考事項

収穫後は速やかに乾燥する。

(3) 麦類赤かび病の防除薬剤

薬剤名	散布量・希釈倍率	農薬使用基準	
		時期	回数
サルファーゾル	400倍	-	-
コロナフロアブル	400倍	-	-
イオウフロアブル	400～800倍	-	-
トップジンM粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	小麦： 3回以内（出穂期以降は2回以内）、 麦類（小麦を除く）： 3回以内（出穂期以降は1回以内）
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで（小麦） 収穫30日前まで〔麦類（小麦を除く）〕	
トップジンMゾル	1,000～1,500倍（小麦）	収穫14日前まで	3回以内
	1,500倍〔麦類（小麦を除く）〕	収穫14日前まで	
トリフミン水和剤	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
トリフミン乳剤（小麦）	1,000倍	収穫 3日前まで	
シルバキュアフロアブル	2,000倍	収穫 7日前まで（小麦）	3回以内
		収穫14日前まで（大麦）	
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	2回以内
ベルコート水和剤（小麦）	1,000～2000倍	収穫21日前まで	3回以内（出穂期以降は1回以内）
ワークアップ粉剤DL	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

なお、これまでご活用いただいていたテレホンサービスは、平成22年度をもって終了いたしました。これまで、永きにわたり、多くのご利用を頂きありがとうございました。病害虫発生予察情報は、引き続き、上記岡山県病害虫防除所ホームページをご利用ください。